

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	れいる d		
○保護者評価実施期間	令和8年2月4日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和8年2月4日		～ 令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会資源の活用を積極的に行っている。	進路選択に役立てるよう、事業所等の見学も行っている。 日々の活動で、スーパーでの買い物体験や地域のゴミ拾いを実施している。 長期休業日(夏休みなど)には、図書館や公園などの公共の施設を利用し、電車乗車体験や外食など、社会性やコミュニケーションを広げる機会を作っている。	新たな情報も集め、現状に満足せず、本人やご家族の考え、職員の思いも考慮し、活動内容を向上させていく。
2	固定化しないよう、日々の活動内容を思案している。	1か月ごとに毎日の集団活動の内容を考えている。 運動、制作、調理、外出の大枠を基本にし、個々のニーズに合わせて活動を行っている。 季節や行事を意識できる内容を組み込んで、感性や創造性の充実を助けている。	新たな情報も集め、現状に満足せず、本人やご家族の考え、職員の思いも考慮し、活動内容を向上させていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との関わる機会が少ない。	利用児の特性に配慮が必要で、地域側の理解を促しつつ関わる機会を調整するための余力が持てない。	構造的に連携が取れるように、対面式だけでなく、関わる方法を模索する。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	れいる d					公表日	令和8年3月13日	
		利用児童数	27名		回収数	22名		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22				ゆっくりするスペースもあって、十分に確保されていると思います。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21	1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	2		5		今後もケガにつながらないように、環境設定に配慮し、個人に合わせて視覚的に提示します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22				面談の時に、とても細かく計画されていて驚きました。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20			2		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	1			家では、できない事（やられるのに抵抗があるような事）などをしてきて、ありがたいです。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	4	5	6		本人やご家族の希望を聞き取りながら、必要に応じて機会の設定の有無を検討します。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22				面談時に、詳しく説明がありました。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	4				今後は、アプリからの発信で、さまざまなお知らせを確認しやすい頻度を増やします。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	22					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	12	3	2	5	兄弟向けのイベントはない。	父母の会の開催はありませんが、お子さんの年代別での保護者の方の交流を目的として茶話会の開催を行いました。その他の交流会も、今後企画していきたいと考えています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21			1		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	1	1	感染症対応が不明確なのではないか。	B C Pの内容を各職員、部門で理解を深め、スムーズに実践します。まん延防止のため、消毒の徹底継続しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22				毎回予定を確認し、とても楽しみにしています。帰ってきてからも「楽しかった」と満足している様子です。とても楽しみにしており、通所の前はプログラムを見えています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	22				とても満足しています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		れいる d				公表日	令和8年 3月 13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の割合で、スペースの必要性が変化する。現状8名では、体も大きくなるにつれ、確保が必要とする曜日もある。 ・人数や関係性を見ながら、和室や面談室、部屋を分けるなどして工夫している。 ・高校生は特に体が大きいので、支援スペースが狭いように感じる時もあるため、活動に応じて部屋を変えている点は工夫して行えていると思う。 ・利用者の休みがない日は少し窮屈なのではないかなと感じる。そこをカバーするために、1階の部屋を活動で使用したり、お散歩等で外出することでうまくカバーできているのではないかなと思う。 ・中高生で部屋を分けたり、男女更衣室を作ったり、個室で過ごしたりなど人数を分けて過ごせるスペースが確保することが出来ている。 		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・人数配置は適切だが、一人休むと曜日によっては管理者が現場に入らなくてはならない日があることに改善が必要だと感じる。 ・現場に入るスタッフで、気配りしながら人数に合わせて臨機応変に配置の対応が出来ている。 ・理想は、もう一人職員が欲しい。 	さまざまなニーズに対応できるように、事業所内での配置パターンを多様化していく必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化が出来ていない。建物上どうしても階段をあがらなくてはいけないようになってきている。 ・子どもの特性や体の大きさに合った環境設定は今後の課題であると感じている。 ・バリアフリーにはなっていない。2階が活動場所となっているので、毎回階段を上がらなくてはならない。 	フラットな環境にするのが難しい箇所もあり、ケガにつながらないように配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の掃除や消毒が行われている。感染源を考慮しアルコールか次亜塩素酸消毒など開けて対応できている。 ・収納スペースはあるものの、うまく活用できていなかったり、各部屋はあるものフリースペースで使用する時間も多いため子供たちがより過ごしやすいうように荷物の整理の仕方や遊び方などに工夫が必要と感じる。 ・毎日、掃除機・アルコール・次亜塩素酸で床拭きを行っている。 		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じた個別の部屋の利用は現在も行われており、今後スヌーズレンの設定等の予定もあり工夫していると思う。 ・個室の数は多くはないが、1人で過ごしたい場合などにも使用することが出来るようになっている。 ・利用者が一人で過ごしたい時に個室を利用することが出来ている。 		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルが全体に浸透していないと感じる。 ・出来ている職員とそうではない職員がいると思う。 	全職員で意識して取り組めるよう、行動を言葉で整理し、理解を深めていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に掲示し、集計を見れるようにしている。 ・改善にまではつなげることが出来てないことが改善する点。 ・意見があった点について、職員で話し合い改善できるように努力している。 ・保護者面談を行い、保護者の意見を聞けるようにしている。 		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスなどで機会は設けられている。改善につながっているかは不透明な部分がある。 ・上司には、場を設けることなく意見を言いやすい環境だと思う。 ・朝礼、昼礼などに気付きの時間を取り入れ、職員皆で話し合いの場を作っている。 		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		現在、実施していないが、必要に応じて、実施も視野にいれていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> ・研修に行けるようにスケジュールの調整をしたり、毎月児童では研修を行う機会を設けている。 ・研修をする機会がある時には、参加出来るように努めている。 ・年間で研修計画を立てている。 		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		公表しているが、全職員に内容が共有出来ていなかったため、周知徹底する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				

適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・職員皆で利用者支援の改善点などを話し合いを行うようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・立案内容を話し合ったり、個々のレベルに合わせた活動の提供を工夫している。 ・職員間で月案の話し合いを行っている。利用者によって作業工程を変更・用意する等工夫をしている。 ・調理、制作などの提案をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・新しいものを取り入れつつも、経験値を上げるために、経験があるものも取り入れている。 ・常に新しい活動のアイデアを求めて検索したり、職員間で情報共有を行っている。 ・偏ってしまわないよう、いろいろな情報を調べている。 ・毎月同じ内容にならないように話し合いをしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・活動内容の確認や送迎の確認、子どもたちの情報共有をしながら、連携した支援を行っています。 ・朝礼で担当者の確認や活動やスケジュールの確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	・時間があれば、支援後に話をしたり、朝礼・昼礼で共有出来ている。 ・支援終了後ではなく翌日だが、支援内容や子どもたちの様子などの気づきを職員間で共有している。 ・終了後には、振り返りを行う時間がないため、翌朝の朝礼で行っている。	振り返りの時間確保を工夫し、いつでも話し合いが出来るようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・連絡帳や、個別記録を用いて記入。改善が必要な場合には朝礼などで話し合いをすることもある。 ・課題・活動・その日の様子などを、連絡帳にて保護者の方への情報共有を行い、複写を保管して支援や様子を振り返ることができるようにしている。 ・課題や気になった部分を記入できる用紙を、利用者ごとに用意している。次の日の朝礼にて“気づき”を全職員からだしてもらい改善策を考えている。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5				
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5		・散歩やクリーン活動などを行い、いろいろな活動や余暇の時間を取り入れている。		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		・活動内で選択を取り入れたり、余暇時間などでも遊びが選択できるような促しを心掛けている。 ・できるだけ本人に自己選択できるように促している。おやつ・余暇時間・トイレに行くのか行かないのか等、本人の意思表示を優先している。 ・遊ぶことが難しい利用者には、二択から選んでもらうように声掛けをしている。		
関係機関	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・担当者がモニタリング、保護者面談への参加が出来ている。 ・管理者と担当者の2名で参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	・必要に応じて、関係機関とケース会議を行い、情報の共有を行っている。	併用事業所とも連携を図り、利用者についての情報共有を行っている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		・その日の学校での様子の確認や日々の事業所での様子の伝達、学校ではどのように対応しているか等、学校(先生)との情報共有を行っている。 ・下校時間が不明な時は、送迎の時に保護者や学校で話を聞いている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	・中学生からの利用となるため、就学前の関係機関との連絡はない。小学生の時に利用者していた事業所から情報を共有できる部分は、できるだけ共有していきたいと思っている。	

や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		・必要であれば、対応が出来る状態である。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		研修を受ける機会が少なかったため、今後検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	・公園などで居合わせることはあるが、特性の理解などの浸透が不十分な様子も見受けられ今後の課題に感じる。 ・地域との交流を深める機会を取ることがない。	保護者の意向や本人にとってのメリットを考慮し、機会を設定するかどうかを検討していく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1		子ども支援部会の放課後等デイサービス連絡会に毎回参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・変化があった点や気になった点については、帰りの送迎や連絡帳にて伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	玄間に掲示する等で、情報の発信はしている。 親子交流会の座談会を通して、現在保護者の皆さんが悩んでいる事へ対してのアドバイスを行っている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・契約時に伝えている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・面談での実施。 ・計画の更新近くのタイミングで、保護者面談を行っている。利用者が意思表示できない場合が多く、保護者が利用者の意志を汲み取って代弁してくれる形で受け取っている。その意見を踏まえたうえで、利用者にとって必要な支援を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・交流会での座談会のほかに面談時や送迎時等で保護者の方の話を聞きとっている。 ・保護者からの相談があった場合、職員で話し合い今後の助言や支援内容を話し合っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	・合同交流会での茶話会や、活動で実施できる工夫をしている。 ・親子交流会を通じて親同士の交流も深まるように支援している。 ・きょうだい同士の交流も交流会の中であるが、そこ単体にもう少しフォーカスした内容での支援ができればいいと考えている。 ・年1回の児童合同交流会を行っている。意図的ではないが、実際に保護者同士が顔を合わせることが出来る機会を作っている。兄弟の参加も出来るようにしている。	アンケート等を実施し、ニーズに合わせて検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・現在、苦情を受けていない為周知等は行ってないが、苦情受付や解決などの担当を決め、掲示している。 ・苦情などが出た場合は、即座に職員で話し合い改善していけるよう心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・今年度より発信ツールを増やして(e-メッセージやインスタグラム)多方面へ情報提供できるような工夫ができています。 ・広報を定期的に作成し、各家庭に配布をしている。インスタグラムでも活動の紹介を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・その方その方に合わせた言葉で伝える事や、時間帯など伝わりやすい方法を取っている。 ・なぜそういう発言をしたか、なぜそういう行動に出たかを考えながら肯定的な声掛けを心がけて支援している。 ・絵カードやジェスチャー・スケジュール等を使用している。保護者の方と話す際には、専門用語を使用せずに、分かりやすい言葉で伝えるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	・地域の方を紹介できる催しを行っていない。おやつを買いに行くことや、クリーン活動などで間接的に関わられる機会を設けている。	事業所での取り組みの内容を、地域で閲覧される回覧板等を使って、広めるようにする。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	・策定はできているが、保護者への周知は改善が必要ではないか。 ・マニュアルはあるが、実施出来ているかは定かではない。	マニュアル内容の周知方法を見直し、訓練内容の再確認を全職員と行う。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	・年三種の避難訓練を行っている。(火災、地震、水害) ・避難訓練の実施内容を保護者に広報として配布している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	2	・長期休みで利用者が服薬する際は、服薬についての確認が取れる用紙に記入してもらっている。	症状などの確認や、対処法の再確認を行い、スムーズに対応が出来るよう心掛ける。

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	・医師の指示書がない方もいるが、アレルギー持ちの方の名前・アレルギーの種類を冷蔵庫に貼って、いつでも確認できるように提示している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	2	・机上訓練は児童全体で行っていたが、家族への周知はできていないと思う。 ・保護者への周知は出来ていない気がする。	周知方法の見直しを行い、実施内容を全職員で共有する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・毎日気付きの報告をあげ、その中でヒヤリハットも上がっていた場合には、改善策まで話し合うことができています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・1人の支援者が抱え込まないように、チームで対応することができていると思う。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	3	・説明の部分で、出来ているのかが職員には不透明なのではないか。	個々の職員での認識にバラつきがあるため、共通認識が出来るようにしていく。